

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 1 区分

【発行日】平成20年10月16日 (2008.10.16)

【公表番号】特表2004-512824(P2004-512824A)

【公表日】平成16年4月30日 (2004.4.30)

【年通号数】公開・登録公報2004-017

【出願番号】特願2002-509377(P2002-509377)

【国際特許分類】

C 1 2 N 15/09 (2006.01)

A 6 1 K 39/00 (2006.01)

A 6 1 K 39/395 (2006.01)

A 6 1 K 45/00 (2006.01)

A 6 1 K 48/00 (2006.01)

A 6 1 P 35/00 (2006.01)

A 6 1 P 37/04 (2006.01)

C 0 7 K 14/82 (2006.01)

C 0 7 K 16/32 (2006.01)

C 0 7 K 19/00 (2006.01)

C 1 2 N 1/15 (2006.01)

C 1 2 N 1/19 (2006.01)

C 1 2 N 1/21 (2006.01)

C 1 2 Q 1/68 (2006.01)

C 1 2 N 5/10 (2006.01)

A 6 1 K 38/00 (2006.01)

【 F I 】

C 1 2 N 15/00 Z N A A

A 6 1 K 39/00 H

A 6 1 K 39/395 H

A 6 1 K 39/395 N

A 6 1 K 45/00

A 6 1 K 48/00

A 6 1 P 35/00

A 6 1 P 37/04

C 0 7 K 14/82

C 0 7 K 16/32

C 0 7 K 19/00

C 1 2 N 1/15

C 1 2 N 1/19

C 1 2 N 1/21

C 1 2 Q 1/68 A

C 1 2 N 5/00 A

A 6 1 K 37/02

【手続補正書】

【提出日】平成20年8月26日 (2008.8.26)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

## 【補正の内容】

## 【特許請求の範囲】

【請求項 1】 T細胞エピトープをコードし、以下：

- (a) 配列番号 1977～1980、1988、1991～1997及び2000 において提供される配列；
- (b) 配列番号 1977～1980、1988、1991～1997及び2000 において提供される配列の相補体；
- (c) 配列番号 1977～1980、1988、1991～1997及び2000 において提供される配列のうち、少なくとも20個連続した残基からなる配列；
- (d) 配列番号 1977～1980、1988、1991～1997及び2000 において提供される配列に、高度にストリンジェントな条件下でハイブリダイズする配列；
- (e) 配列番号 1977～1980、1988、1991～1997及び2000 の配列に対して、少なくとも90%の同一性を有する配列；ならびに
- (f) 配列番号 1977～1980、1988、1991～1997及び2000 において提供される配列の、縮重改変体、  
からなる群より選択される配列を含む、単離されたポリヌクレオチド。

【請求項 2】 配列番号809に特異的なT細胞を刺激する能力を有し、以下：

- (a) 配列番号 1948～1951、1959、1962～1968及び1971 において提供される配列；
- (b) 配列番号 1948～1951、1959、1962～1968及び1971 において提供される配列に対して、少なくとも90%の同一性を有する配列；
- (c) 請求項1に記載のポリヌクレオチドによってコードされる配列；ならびに
- (d) 請求項1に記載のポリヌクレオチドによってコードされる配列に対して、少なくとも90%の同一性を有する配列、  
からなる群より選択されるアミノ酸配列を含む、単離されたポリペプチド。

【請求項 3】 発現制御配列に作動可能に連結した請求項1に記載のポリヌクレオチドまたは請求項2に記載のポリペプチドをコードするポリヌクレオチドを含む、発現ベクター。

【請求項 4】 請求項3に記載の発現ベクターで形質転換またはトランスフェクトした、宿主細胞。

【請求項 5】 請求項2に記載のポリペプチドに特異的に結合する、単離された抗体またはその抗原結合フラグメント。

【請求項 6】 請求項2に記載のアミノ酸配列を含むポリペプチドに特異的に結合する、請求項5に記載の単離された抗体または抗原結合フラグメント。

【請求項 7】 患者における肺癌の存在を検出するための方法であって、該方法は、以下の工程：

- (a) 該患者由来の生物学的サンプルを請求項2に記載のポリペプチドに結合する結合因子と接触させる工程；
- (b) 該結合因子に結合するポリペプチドの量を、該サンプルにおいて検出する工程；ならびに
- (c) 該ポリペプチドの量を、所定のカットオフ値と比較し、それにより該患者における癌の存在を決定する工程、  
を包含する、方法。

【請求項 8】 結合因子は抗体である請求項7に記載の方法。

【請求項 9】 請求項2に記載の少なくとも1つのポリペプチドを含む、融合タンパク質。

【請求項 10】 前記少なくとも1つのポリペプチドが、以下：

- (a) 配列番号 1948～1951、1959、1962～1968及び1971 において提供されるアミノ酸配列を含むポリペプチド；ならびに
- (b) 配列番号 1977～1980、1988、1991～1997及び2000 において

て提供されるポリヌクレオチド配列によってコードされるポリペプチド、  
において提供される、請求項 9 に記載の融合タンパク質。

【請求項 1 1】 腫瘍タンパク質に特異的な T 細胞を刺激および / または増殖するための ex vivo 方法であって、該方法は、T 細胞を、以下：

- ( a ) 請求項 2 に記載のポリペプチド；
- ( b ) 請求項 1 に記載のポリヌクレオチド；
- ( c ) 請求項 2 に記載のポリペプチドを発現する抗原提示細胞、  
からなる群より選択される少なくとも 1 つの成分と、T 細胞の刺激および / または増殖を  
可能にするのに十分な条件下および時間で接触させる工程を包含する、方法。

【請求項 1 2】 請求項 1 1 に記載の方法に従って調製される T 細胞を含む、単離された T 細胞集団。

【請求項 1 3】 第 1 成分および第 2 成分を含む組成物であって、該第 1 成分は、生理学的に受容可能なキャリアおよび免疫刺激剤からなる群より選択され、そして第 2 成分は、以下：

- ( a ) 請求項 2 に記載のポリペプチド；
- ( b ) 請求項 1 に記載のポリヌクレオチド；
- ( c ) 請求項 5 に記載の抗体又はその抗原結合フラグメント；
- ( d ) 請求項 9 に記載の融合タンパク質；
- ( e ) 請求項 1 2 に記載の T 細胞集団；ならびに
- ( f ) 請求項 2 に記載のポリペプチドを発現する抗原提示細胞、  
からなる群より選択される、組成物。

【請求項 1 4】 患者における免疫応答を刺激するための医薬の製造に使用するための請求項 1 2 に記載の T 細胞集団。

【請求項 1 5】 患者における免疫応答を刺激するための医薬の製造に使用するための請求項 1 3 に記載の組成物。

【請求項 1 6】 請求項 5 に記載の少なくとも 1 つの抗体又はその抗原結合フラグメント、および検出試薬を備える診断キット。

【請求項 1 7】 請求項 2 に記載の少なくとも 1 つのポリペプチド又は請求項 9 に記載の融合タンパク質、及び検出試薬を備える診断キット。

【請求項 1 8】 生物学的サンプルにおいて肺癌の存在を検出するための、請求項 5 に記載の抗体又は抗原結合フラグメントの使用。